

令和8年3月2日

令和7年度とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	新宿区立花園幼稚園
所在地	新宿区新宿1-22-1

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「植物」：幼児の探究心を育むための園環境の工夫
～身近な植物との出会いを通して～

<テーマの設定理由>

園が公園に面している立地であること、また、近隣に新宿御苑があり毎月園外保育に行くこと等、日頃より幼児が植物を身近に感じる機会が多い実態がある。そこで、植物を主体的に遊びや活動に取り入れ、直接体験を通して心を動かす中で、幼児の感性を磨いたり探究心を育んだりすることを目的とし、上記テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- ・季節に応じた植物を栽培する中で、遊びに取り入れたり、変化や気付きを描画や製作で表現したりできるような環境を常時設定し、主体的に取り組めるようにする。
- ・毎月1回の新宿御苑における園外保育の中で、季節の変化を感じられるようなねらいを設定し、活動する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・学年や発達、季節に応じた植物の種子や苗及び栽培に必要なプランター等
- ・栽培物に目をかけ、世話をしやすいような物（じょうろ、雑草や花がらを捨てる箱等）
- ・感じたことをすぐに表現できるよう描画に必要な画用紙、絵の具や筆、製作に必要な様々な素材
- ・気付きや発見につながるよう、幼児の動線を考慮した栽培物の配置環境
- ・気付きや発見をすぐに表現できるような描画環境の充実（園庭やテラス環境の工夫）
- ・気付きや発見を共有しやすいよう、記録や振り返り用のICT環境（各学級1台のiPad）

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

- ・その時期ならではの植物を栽培したり遊びに取り入れたりする中で、変化や違い、不思議さに気付いたり追求したりする。
- ・変化や気付きを視覚的に共有できるような環境を整えることで、幼児同士が思いや考えを共有し合い、体験したことが経験として積み重ねられるようにする。
- ・毎月の新宿御苑への園外保育の中で、植物の変化を通して幼児の新たな発見や学びの深まりにつなげる。

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- ・幼児は、季節によって育つ植物に違いがあること、また、種子や苗、球根等、植物の「命」の形が様々なことを学んでいた。
- ・学級の実態に合わせ、栽培から収穫、会食と、栽培物の命の一連のサイクルを意識した活動や関わりを継続する中で、幼児の興味・関心が広がり、探究心が深まる姿が見られた。
- ・互いに気付いたことや感じたことを自由に表現できる環境を整えたことで、友達の姿から関心が深まったり、思ったことを伝え合う中で共感し合ったりする姿につながっていた。
- ・幼児同士の声を保育者が意識して拾い、つなげていくことが、学級全体の探究心の深まりにつながっていた。

<活動の様子>



【園庭の自然物を使って遊ぶ】



【御苑遠足で身近な植物を探すオリエンテーリング】

5. 振り返り

- ・年間を通して意識して栽培活動を行うことで、保育者自身が植物と丁寧に関わるようになった。保育者自身の感性を磨くことが学級の幼児の姿につながっていくことが分かった。
- ・保育者と幼児が主体的に楽しんで活動することで、保護者自身にもその様子が伝わり、園の教育内容をより具体的に知ってもらう機会につながることが分かった。また、そのことが親子栽培活動の充実にもつながった。
- ・植物環境を充実させていくことと連動して、虫等の生き物との出会いにもつながっていくことが分かった。次年度はテーマを「自然」とし、間口を広げることで、園の実態や立地を生かした幼児の探究活動の充実につなげていく。
- ・今年度は、新宿御苑への園外保育の日程が講師の予定と合わず、講師招聘を断念したため、次年度は計画的に実施し、より充実した活動内容となるようにしていく。

以上